

「札幌外傷整形外科カンファレンス (SOTC)」の 変遷と参加案内

札幌東徳洲会病院 外傷部 土田 芳彦

平成21年1月17日に「第38回札幌外傷整形外科カンファレンス」を開催させていただきました。本年から年3回の土曜日開催・座長の設定・挙手発言、さらに整形外科教育研修講演の導入と、少し変化させていただいております。これも、より多くの人に垣根なく参加いただき、「外傷整形外科の知識」を共有していこうとの意図の表れです。是非今後もお気軽に参加いただけますようお願い申し上げます。

さて、思い起こしますに第1回のSOTCを開催したのは平成16年4月16日金曜日のことでした。札幌医大の3階会議室に、札幌医大救急部、時計台整形外科、札幌徳洲会病院整形外科の3病院の外傷好きな医師が症例を持ち寄り、フリー discussion を始めたのです。その頃は、私も札幌医大救急部で外傷を始めて数年が経過し、またAOコースがまさに盛り上がりを見せてきている頃で、是非多くの人と討論したいと考えていたのです。

私が医師になり研修を受けていた頃は、外傷整形外科と言えば骨折であり、いわゆる骨接ぎというものを、先輩たちが経験則に基づいて、自分独自の方法で治療しているようでありまして、なにやら医学・医療というよりも職人の世界の印象でした。今でも変性疾患を主としてやられている先生はまだそう思っているのだろうと推察します。

しかし、そうではなかったのです。外傷整形外科は骨折治療だけでなく皮膚・筋・神経・血管などの軟部組織損傷再建をも対象にしている総合的な四肢機能再建学であり、しかも多発外

傷などということになりますと、ダメージコントロールだの stage surgery だの考えなければならない、より集学的なものだったのです。札幌医大救急部での臨床経験とAO法との接触が、外傷整形外科を一つの確固とした subspeciality と確信させてくれました。

そんなことで、総合的な「外傷整形外科治療」を討論したいと始めたわけですが、札幌医大関連に始まり市立札幌、小樽市立などの北大関連へと何とか参加者を募り、また年に6-8回とかなり頻回にやってきました。すでに5年近く経過し、会も37回を数えるほどになりましたが、いま一つ参加者が少なく、また当初目指していた subspeciality としての外傷整形外科の浸透からはかなり遠いと感じるに至り、本年度からの開催方法とさせていただくことになったのです。

北海道整形外科外傷研究会（外傷研）と内容がダブルのではないかと思われるかもしれませんが、今年より北海道整形外科外傷研究会は、2月の今までどおりの研究会と8月のセミナーの開催に変更となるため、症例検討や一般演題の発表の場が減る分を当カンファレンスでより気軽に討議できるよう1月、5月、9月の年3回の土曜日に予定しています。論理的でベラルな症例検討と道内講師による「教育研修講演」を開催していきたいと思っております。論理的な骨折治療、そして骨折治療を超えた「外傷整形外科治療」が学べるのではないかと思います。是非、一緒に勉強していきましょう。皆さんの参加をお待ち申し上げます。